

**富山市総合計画審議会「第1回 協働・連携部会」  
議事録**

日時：令和3年8月5日（木）10:30～12:00

場所：富山市役所 802 会議室

出席者：(順不同)

中村 和之	富山大学副学長
山本 覚	株式会社日本政策投資銀行富山事務所所長
今井 壽子	NPO 法人花街道薬膳のまちを夢みる会理事長
北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会会長
佐藤 鉄朗	公募委員
松浦 憲秀	公益社団法人富山青年会議所理事長
村上 宏康	とやま未来共創チーム会長
綿谷 雅代	富山商工会議所女性会会長

企画管理部	渡辺理事、山口企画調整課主幹、牧野企画調整課主事
財務部	牧田部長
こども家庭部	本郷こども福祉課長
市民生活部	岡地部長、高田男女参画・市民協働課長
商工労働部	由水菓業物産課長
農林水産部	本林次長
活力都市創造部	村井参事
建設部	高田公園緑地課長代理
議会事務局	野嶽議事調査課長
教育委員会	伊藤生涯学習課主幹

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 部会長職務代理者の指名

部会長から、山本覚委員を部会長職務代理者に指名。

4. 第2次富山市総合計画前期基本計画（案）について

資料「第2次富山市総合計画後期基本計画（案）」に基づき事務局から説明。

部会長

- ・ 前期計画を踏襲しつつ、コロナ禍に代表される昨今の状況を踏まえたもの、表現を追加したもの、新しく計画されている事業等を踏まえて改訂されたものがあるという認識である。事務局からの説明に対して意見や質問があればお聞かせいただきたい。

## 委員

- ・ 目標とする指標が設定されていないところがあるが、なぜ目標とする指標を掲げていないのか。

## 事務局

- ・ 当部会で扱う内容については、包括的で目に見えない部分が多いため目標の設定ができるものが少なくなっている。また、目標設定した以上、毎年振り返りをしていく必要があるが、なるべく結果として数値にあらわれるようなものを目標設定すべきという観点からも、なかなか設定ができないものが多いという状況である。

## 部会長

- ・ 目標とする指標については、それぞれ進捗管理するときに、内部的には概ねの規模感や数値感を持っていると思うが、目標という形で明示するには至っていないということである。おそらく当部会で検討する事柄は、行政の進め方や仕組みに関する部分で、他部局も含めて多くの部局が関連する分野のため、なかなか数値目標が出しづらいと思う。それぞれ個別の事業でしっかり目標管理ということが大事かと思う。一方で、シティプロモーションの部分は個別の事業で完結しており、目標をしっかりと掲げて進捗管理できると思う。5年の検証段階で、しっかり成果や課題を把握した上でチェックしていくということが大切である。

## 委員

- ・ 目標について、本当に実現できるのかという疑問がある。ハード整備にばかりお金を使い、ソフトの部分について疎かになっていると思う。ソフトの部分を作り上げていこうとしたときに、所管や予算の問題等いろいろな制約でできないことが多い。
- ・ オープンデータ化について、個人情報の問題等で情報が出てこないことが多い。ただし、他市と比べると窓口へ行かなくてもホームページで確認できることも多く、その点でのオープンデータ化は進めていただきたい。
- ・ PPP/PFI については、私たちのような小さい組織が良いアイデアを出しても、おそらくアイデアだけ取られて、結局採択されるのは大きいところで、全部取られてしまっている印象がある。

## 部会長

- ・ 総合計画の性質上、すべての分野について網羅的にやりたいことを書かなければいけないという理解がある。実際できそうなことだけを書いていても仕方がなく、できそうにないことにもチャレンジし、やらなければならないことはしっかりやる、という認識も大切で、そこは我々からこういった視点が大事だということを部会で伝えていくということが大事かと思う。
- ・ オープンデータの活用については、行政が持っているデータには制約があるものが多いと思うが、我々としてはこういうデータがあればこういうことができるというところをしっかりと伝えていかなければならないと思うし、それが協働連携の意味だと思う。そのような仕組みや事例を積み上げていくために、どのようなスキームがあるのかということも考えていただきたい。

## 委員

- ・ 「現状と課題」があり、それを受けて「目標とする指標」が作られていると思うが、そこから「施策の方向」を見ると、目標とする指標に関係のないことも書かれていると感じる。通常、上から順に広げていくように書かれていると思うが、急に指標が狭まって、また広がって、という見え方になっている。指標にできないことも多々あるとは理解しているが、いまいち伝わりづらいと思う。検証するための指標も大事だが、検証できない部分においても、数値化できなくとも何らかの方向に対する最終的な目標がないと分かりづらいと思う。
- ・ 富山市がどのような方向を目指してやっていくのかということが、A4 1枚で図解化されたようなものがあれば分かりやすいと思う。
- ・ 全体を通して、どこに力を入れていきたいのかが分かりづらい。

## 部会長

- ・ おそらく民間で経営に携わっていらっしゃる方からすると、見えにくいと感じるところがあるのかなと思う。民間のビジネスであれば、一つの目標があり、それをブレイクダウンし細かく切り分けていって、個別の目標に落とし込んでいく、ということになると思うが、この施策の場合は複数の施策がいろいろな形でかかわり合っているため、そこが少し見えにくいと思う。例えば、公共的な事業の目標は人々の満足感だが、それを指標として表すことは難しく、代用してとらえましょう、という視点もあるため、丁寧に説明をする必要があると思う。
- ・ 概要版について作る予定はあるか。

## 事務局

- ・ 作る予定としている。
- ・ 今回の後期基本計画の冊子の中には、前期にはなかったような「冊子の見方」のようなものを載せることを考えている。それぞれの項目について説明をした上で、見やすく馴染みやすいようなものにできればと考えている。

## 部会長

- ・ 当部会は市民との協働・連携に関する部会であり、そういった点についてしっかりメッセージを出していく必要があると思う。

## 委員

- ・ 私は富山市中心部に来て10年ちょっとになるが、それまでは東部の過疎地域に住んでいたため、富山市について比較できる。
- ・ 生涯学習的な施設については大変充実しており、今後もより充実させて欲しい。その上で、周りを見ても実際に行っている人がまだ少なく、より多くの人に行ってもらえるようPRや啓発を行っていただきたい。
- ・ コミュニティの問題について、以前住んでいた地域と比べると、隣人が分からないということに寂しさや危険を感じることもあり、つながりが希薄になっている。例えば、DV・児童虐待について、ニュースでは多いという報道があるが、身近で聞いたことがない。実際に起こった場合、どこに通報

すべきか分からない。また、近所に救急車が来ても誰も表に出てこない。そういった意味でつながりをもっと強くできないか。

- ・ 「住みよいまち」、「行きたいまち」という観点について、障害者が街を歩いていないと感じるため、障害者が街に出やすい街づくりについても考えて欲しい。
- ・ 県外の人にとって、富山の場所の認知度が低い。特色をいかに出すかということが大事だと思う。富山の特色で言うと、売薬や薬膳のような特化したものでよりPRをすべき。

## 部会長

- ・ 富山市は生涯教育が非常に充実しており、もっと広めるべきというコメントについてはまさにそのとおりだと思う。今回当部会に関連する指標としては公民館関係の指標があるが、幅広い利用者に利用していただけるというところが重要であり、公の施設は固定した方々、事情をよく知っている方々がよく利用されていると思うので、広く周知をしていくことが大事かと思う。
- ・ コミュニティの問題について、169 ページの一人ひとりが尊重される地域社会づくりが当部会と関係してくる部分で、もう少し個別具体的問題になると他の部会とも関係してくるため、調整部会等でも共有していきたいと思う。また、今後一般企業での定年が後ろ倒しになっていくのにしたがって、従来は60歳を過ぎて地域活動に参加しようと思う方がいらっしまったとして、それが65歳、70歳となると、地域活動やコミュニティ活動に参加される方々の土台が脆弱になることを危惧している。ワークライフバランスをどのように「富山スタイル」として浸透させていくかが大事かと思う。
- ・ 障害者へのアプローチについても、普遍的かつどこであってもやらないといけないことであり、そもそもSDGsを標榜するからには、誰一人取り残さないというのが基本理念ということで、当部会に関係するところは意識しつつ、他の部会でも議論いただきたいと思う。
- ・ シティプロモーションについては、我々市民自身が富山市について広く知っていくということがシティプロモーションに繋がるというスタンスであると理解しており、事業についてしっかり取り組んでいただきたいと思う。
- ・ 176 ページの「くすり関連施設事業」について、例えばどのような内容か。

## 事務局

- ・ くすり関連施設整備事業については、平成30年に基本構想基本計画というもので、四つの基本方針を持った施設を作る計画を作っていた。四つの基本方針については、①シティプランニング：富山のブランドイメージを強化する、②富山としての誇り（シビックプライド）を育む場を創出する、③中心市街地の賑わいと回遊性を満たす拠点を創出する、④産官学民の連携により未来を創造する、という方針でもって、くすりをテーマとした施設を整備したいということで計画をしている。ただし、コロナ禍のため少し時間をかけて、他部局の連携やソフト的な事業、人の育成、ご指摘にあったPRも含めて、ぜひやっていきたいと考えている。

## 部会長

- ・ 本審議会の高木会長が「産業観光」という視点を仰るが、産業観光の面からソフト・ハードも含めて、どのような展開ができるのか、当部会のスタンスとしては市民との協働、企業も巻き込んだ形での協働でどういったものができるのかについてしっかり考えていただきたい。

## 委員

- ・ 182 ページ「現状と課題」について、「人口減少や超高齢社会の進行に加え、コロナ禍により、国及び地方は、極めて厳しい行財政運営を強いられることになる」と書いてあるが、国で税金を無駄遣いしているのではないかと思うので、地方分権を大いに進めていただきたい。
- ・ 全体的に、一般市民が何をすれば良いのか分からない。
- ・ 富山の知名度を上げるため、「くすりの富山」「薬都」を広め、健康長寿日本一を目指したい。特色を出して、富山に住みたいと思ってもらえる人を増やしたい。
- ・ 環水公園から呉羽丘陵の連絡橋を渡り、ファミリーパークまで縦断できるようにして健康づくりできる環境を作り、健康長寿日本一になることを目指す。ファミリーパークには池や森があり、少し手を加えると素晴らしく良いところになると思う。呉羽丘陵を観光のために使うという目標を立てると良い。コンパクトシティ直近の森ということもあり、大いに利活用できるのではないかと考える。また、再整備にボランティアが必要になった際には、「ボランティアは無償」という考えはあるにしても、半日 3000 円程度を出すような有償ボランティアとするのはいかがか。それに併せて、寄付文化の醸成もできれば社会貢献の意味合いも出てくる。
- ・ 県外の方を対象に「2泊3日富山県の旅」、「滞在型富山県」を実施し、1週間滞在中に有機農業の野菜を堪能して健康になってもらう、といった事業も良いかと思う。

## 部会長

- ・ 「国及び地方は、極めて厳しい行財政運営を強いられる」という部分について、どのような根拠で記載しているのか。

## 事務局

- ・ 恐らく国も地方も同じ状況であり、その要因の一つに人口減少がある。これまでは明治以降人口が増加してきて、成長段階にあってその社会の仕組みが作られてきたということだが、近年人口減少に転じ、現在加速度的に人口が減少してきている。これまでの成長段階に合った社会の仕組みは今後維持できず、システムを見直していかなければならない。

財源についても同じく、人口減少と高齢化が進行していく中で社会保障費が増大していき、その他に回せる財源にも限りが出てくるという厳しい状況にあり、これは地方も国も同じことである。その中で、富山市が拠点集中型のコンパクトなまちづくり、とりわけ中心市街地の活性化推進、魅力向上、企業進出の促進を図ってきたところである。そういった工夫により固定資産税として財源にも跳ね返ってくるため、様々な施策を講じながら地方独自に財源を確保していくことが今後必要になってくると思っている。

## 部会長

- ・ やはり長期的な流れの中で財政収支が非常に厳しくなっていくのは確かなことだと思う。富山市はその中で行財政を改善させるやり方として、小手先ではなくしっかりまちづくりをして固定資産税の税収を上げていく、といった体力をつけて税収を上げようという戦略を取っているのです、そこはしっかり堅持していただきたい。

- ・ 民間の様々なNPO・NGOの方々といろいろな形で協働していく、あるいは連携して意見を聞きながらいろいろなプランニングをしていく、ということで一つ一つ実現していったものが多く、そういった姿勢が今後大事になってくると考えている。
- ・ 高齢化に伴う健康寿命という意見について、「薬」が健康関連のワードとしてあり、産業として非常に盛んであること、またジェネリックの使用率が高いこと等から、富山は医療に対する意識が高いと感じる。ただし、健康面ではまだ課題を抱えており、薬と健康をどのようにストーリーづけていくかを考えることで、プロモーションにも繋がると思う。

#### 委員

- ・ 富山はまちなかと山の位置関係がすごく良いと思う。ただし、山に施設を作るとなると、何でも開発できる訳ではないため、もう少し柔軟性があると良い。
- ・ ボランティアについて、富山市から積極的に補助を出すのは難しいと思うが、例えばボランティアに参加すると減税される、窓口で優先的に対応してもらえる、といったインセンティブがあると参加者側にも満足感が生まれる。また、参加することで孤独感もなくなり、結果的につながりが生まれる。

#### 部会長

- ・ 実現可否は別として、考え方が大事である。そういったコミュニケーションをとるのが大事であり、次のアイデアも出てくると思われる。例えば志を同じにする人同士が会話できるプラットフォームを作ることが行政の役割なのかもしれない。

#### 委員

- ・ 定年が来たら何をしようかと考えることがある。市民大学等いろいろな組織がいろいろなことを企画しているが、そこへたどり着くのが大変であり、また定員が決まってい入れないこともある。自分で有料施設を探すとなると経済的にも大変である。地域の繋がりが希薄なこともあり、周りの方々がどのように、一線を退いた後の「生きがいづくり」を探しているのか疑問に感じている。

#### 部会長

- ・ 定年を迎えたあとどうやって過ごしていくかについては個人の生きがいでもあり、社会としてそれらの人々の力をどのように活用していくか、まさに「市民協働」をどうやって促進できるかということにつながっていくと思う。情報の提供についても、例えばインターネットを使った形で提供できるのか、超高齢化社会ということを見据えて考えていくことが大事かと思う。

#### 委員

- ・ 例えば166ページについて、「地域コミュニティの衰退が懸念されています」という現状と課題があり、それを各自治振興会がどのように克服するかということについては、現在の各地区の自治振興会の悩みである。その施策の方向として、「積極的に地域活動に取り組む」というのは少し薄いと思う。現状と課題で良くないところを指摘して、施策でそれを良くするという書き方もあるが、こういった良さがあって、それをさらにこの施策でより良く、良さを発揮するためにはこのようにしていくべき、といったような叙述の方法もあるのではないかと。マイナスからプラスへの転換ではなく、プラスから

プラス2、プラス3への発展という考え方が必要ではないか。

- ・ ジェンダーフリー、人権の重要性、男女共同参画社会の実現といった美しい言葉の羅列もさることながら、より具体的に、私たちはどのように力を合わせてやっていかなければならないのか、といった視点も大事なのではないかと思う。

#### 部会長

- ・ 富山市が持っている強みをさらに伸ばしていく、という視点での書き方でも良いのではないか、という意見について、まさに大事なことであると感じる。総合計画の基本計画としてどのレベルまで書き込んでいくかという問題はあるが、少なくともその計画の背後にはこのような考え方があり、ということを整理した上で書いていただきたい。

#### 委員

- ・ 例えば、「公民館の利用を増やしたい」という手法が先に来て、その課題がよく分からない。私世代が公民館を利用したいかと問われると、しないといけない理由が分からない。地域コミュニティが希薄化していることについて、なぜそれが問題なのか分からないと思っている人達もいるだろう。特に公民館を利用しなくても他にイベントスペースがたくさんあるため、そちらの方が利用しやすいと思っている人もいるだろう。

もし公民館を利用して欲しいという思いがあるのであれば、何のために利用しないといけないのか、ということをもっと明確にしなければならない。例えば富山市の建物の規制や用途地域について、何のためにあるのかが分からない。「立山がきれいに見えるまちをつくりたいから」等の分かりやすい理由があると理解しやすい。

また、誰を対象としているのかが分かりづらい。年配者と若者が求めるものは異なるため、誰を対象に、何のためにこの施策を実施するのか、という視点を持って考えるべきである。

#### 部会長

- ・ 共通の理解という最低限の部分については非常に大事だと思う。この基本計画が実際に走り出した際には、個別のものについてワークショップのようなものを実施しても良いかもしれないし、ルールや規制のような個別の問題についても、意見を交換する場があっても良いかもしれない。行政だけでなく、幅広い層を含めた形での議論があっても良いかと思うし、それが協働・連携の意味ではないかと思う。
- ・ 他に何かあれば書面等でも意見をお聞かせいただければ。また、本日出た意見については各担当でも検討いただきながら、次回の案に反映させていただきたい。
- ・ 以上をもって議事を終了する。

#### 事務局

- ・ これをもって、富山市総合計画審議会第1回協働・連携部会を終了する。
- ・ 次回の部会の開催日時については、9月下旬で調整したい。

以上